



スズムシなどの虫のきれいな鳴き声は、どこから出るの

鳴くのは仲間への合図

鳴く虫は、ほとんどが、コオロギかキリギリスの仲間に入ります。コオロギもキリギリスも、前ばねをこすり合わせて鳴きます。どちらも、しげった草むらで、同じ仲間どうしがどこにいるのか、探すのもむずかしい所でくらししています。そこで、成虫になったオスは、羽をこすり合わせて、さかんに鳴くようになります。鳴き声でオスのいる場所にメスが近寄っていきます。オスどうしも、鳴き声であまり近くにかたまらないようにします。

スズムシの鳴くしくみ

コオロギの仲間であるスズムシは、左右の前ばねを立て、右ばねを左ばねの上に重ねて、左右のはねをこすり合わせて鳴きます。右前ばねの裏側にぎざぎざしたやすりの部分があり、左前ばねの表側には、やすりをこするつめがあります。つめでやすりをこすって音を出し、左右のはねについている発音鏡で、音を大きくひびかせているのです。メスの前ばねには、このようなしくみはないため、どの虫のメスも鳴きません。キリギリスの仲間は、左前ばねの裏にやすりがあり、コオロギの仲間と左右のはねが逆になっていること、鳴くとき前ばねを立てないことだけが、ちがっています。(監修・中山 周平)

